No1　次代へつなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化

□　計画期間：平成31年度～令和3年度
□　対象名：（農）玉浦中部ファーム
□　課題の背景

・大豆転作組合を前身とする当法人では，農作業の効率化や作業計画の作成等に活かすため，平成31年に経営・生産管理システムを導入し，農作業の進捗管理やほ場データ管理を行なっているが，蓄積データの分析等が課題となっている。
・構成員の高齢化で，社員の確保・育成が急務となり，今秋の採用を皮切りに，構成員の退職にあわせた人材の補充を計画している。雇用・労務などの管理体制整備はもとより，将来，法人の経営を承継する人材の育成計画等が必要となっている。
・主力作物の大豆の増収を目指し，施肥管理や除草体系の改善，新規技術等を導入し，取り組んできている。一方，法人売上の増加・社員労力の有効活用策として，新規部門の導入検討が必要である。

令和2年度

目　標	活動事項	成　果
■データ分析から効率化目標が設定され，目標達成に向けた取組が始まる。 	◆データ活用による農作業の効率化とスマート農業支援 	・システム導入後，作業進捗・履歴確認が容易になり，重複等の作業ミスが減少。 ・大豆播種日毎のほ場一覧表を作成。収穫作業の計画作成に利用する見込み。 ・個人毎の作業面積・時間等の集計表を，今後社員の人事評価に活用。 ・蓄積データの活用を法人と農改で調整し，法人経営に有効な活用方法を検討中。
■次代を担う人材の確保・育成体制の整備。 	◆法人を支える人材の求人手法・育成体制の整備支援 	・今秋に法人初の社員採用の見込み。来春の新規採用者確保のため求人活動中。 ・社員定着に向け，雇用・労務管理体制を整備中。 ・「農の雇用事業」申請を起点に人材育成のための研修計画を作成中。 ・法人が，将来の経営承継について作業工程や候補者選定の具体化が必要と認識。
■大規模大豆栽培管理技術の確立と新部門の取組方向の決定 	◆大規模大豆栽培技術の確立と新規部門の導入検討 	・6月中旬までに大豆播種が完了。7月下旬に増収・倒伏対策として摘芯を実施。 ・強害雑草対策としての新規除草剤散布面積が拡大。強害雑草を抑制。 ・今年，一部で地下かんがいを実施。 ・増収及び雇用対策としての新部門導入の検討は断続的に実施。

意図する対象の変化（最終年）

●農業生産管理システムの運営体制が整い，データの有効活用やスマート農業への取組により，営農の効率化が図られる。
●人材の確保・育成体制が整備され，次代の法人を担う社員を育成・定着させることができる。
●新技術の導入・施肥改善等による大豆単収の向上や新品目の導入により法人の売上が向上する。

数値目標：法人売上高の増加率

【目標値】100%(H30)→102%(H31)→105%(R2)→107%(R3)
【実績値】　　→ 105%　　→　　→

No2 大規模水田営農に対応した水稲直播栽培技術の向上と実践

□ 計画期間：平成31年度～令和2年度
□ 対象名：(株)美田園ファーム（管内水稲直播栽培志向生産者5経営体）
□ 課題の背景

- 対象者の経営する水田は，震災からの復旧に伴うほ場整備により大区画化した。また，農地集積により，経営面積の大規模化も進んでいる。
- 大規模化に対応する省力化技術として，乾田直播栽培に取り組んでいるが，「肥培管理」や「雑草防除」など，一般的な移植栽培と異なる管理が必要である。そのため，収量の高位安定化に向けた技術確立への支援が求められている。
- 管内には，乾田直播栽培を開始及び拡大する生産者が増加しているが，雑草害等に苦慮し，十分な収量を確保できない生産者が多い。そのため，管内乾田直播栽培志向者の栽培技術の向上および定着を図る必要がある。

令和2年度

目標	活動事項	成　果
■ 水稲直播栽培において，適切な肥培管理等の栽培技術が確立することにより，安定した生育・収量を得られるようになる。 	◆ 直播栽培技術の確立支援	・ 生育調査の結果を分かりやすくグラフ化して提供することにより，その後の管理作業について，生産者自ら考えるようになり，理解がより深まった。 ・ 土壌処理剤などを組み合わせた，効率的な雑草防除の体系処理を提案したことにより，以前よりも大幅に雑草発生量を減らすことができ，省力化につながっている。
	◆「直播栽培勉強会」の開催による直播栽培志向生産者の技術向上支援	・ 定期的に「乾田直播栽培勉強会」や「先進地視察」を開催することより，生産者間の情報交換が活発化し，栽培技術に対する理解が深まり，改善点を見出すきっかけとなった。 ・ 参加者の中には，これから始めようと考えている生産者も多く，乾田直播栽培技術導入への意欲がさらに高まっている。

意図する対象の変化（最終年）

●水稲直播栽培において，適切な肥培管理等の栽培技術が確立することにより，安定した生育・収量を得られるようになる。

数値目標：対象者の直播栽培収量の増加率
100%→102%（令和元年度）→ 105%（令和2年度）

No3　新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産

□　計画期間：令和2年度～令和3年度
□　対象名：JAみやぎ亘理いちご部会「にこにこベリー」生産者21人
（管内いちご生産者及びいちご生産法人）

□　課題の背景

・県育成いちご新品種「にこにこベリー」は,県関係事業の他，外部の関係機関においてもマスコミ活用などの手厚いPR施策が展開されており，早期の普及が期待されている。

・管内では平成30年から試作が始まり,令和2年産作付面積は2.2ha（管内JA作付面積の4.2%）まで増加しているが，生産者からは,苗の充実不足や無理な早植えは，果実の小玉化や，連続して収穫できなくなる「中休み」が発生するなどの課題があげられ,育苗管理技術の適正化が望まれている。また，特に3月以降の収量性が良いため，出荷量増加に対して作業労力が不足するなど,収穫量に対する労力のバランスがとれない状況にある。「にこにこベリー」は,このようなことから作付面積拡大に至っていないのが現状である。

令和2年度

目標	活動事項	成果
■「にこにこベリー」の特性を理解し，育苗管理ができるようになる。 	◆育苗巡回指導 （肥培管理） ◆育苗巡回指導 （採苗・防除管理） 	・育苗管理方法について再確認し、管理の中では肥培管理を特に意識するようになった。 ・資料提供や巡回時の情報提供により、親株の追肥や苗の肥料を多めにやるなど、「にこにこベリー」に合わせた育苗管理ができるようになってきた。
■品種ごとの収穫時間，調製労力を把握できる。 	◆作付時期等調査聞取り ◆夜冷処理関係聞取りと誘導 	・いちご栽培管理全般に関する聞取り調査を行なって、団地生産者の約半数（76名）の調査を終えた。高齢化による労力不足が課題となりつつある。 ・「にこにこベリー」の特徴について49名の生産者から聞取りを行なった。栽培経験のない生産者と，経験のある生産者では，課題としてとらえている部分が異なっていた。特に小玉についてのイメージは，経験のない生産者で強かった。「にこにこベリー」生産者の技術情報を共有できるようにしていく。

意図する対象の変化（最終年）

●適切な育苗管理と夜冷処理を含む適期の定植により年内から連続した収穫が可能になる
●既存品種との組み合わせによる，労力に適合した面積を決めることができる

数値目標：年内収量の向上　100%（令和元年度）→125%（令和2年度）→150%（令和3年度）

No4「シャインマスカット」の栽培技術力の向上による生産拡大

□ 計画期間：令和2年度～令和3年度
□ 対象名：管内ぶどう生産者4人，（（農）志賀）
□ 課題の背景

- 管内の直売所では，主要な地域特産品の1つであるいちごの出荷期間以外の時期に消費者を呼び込む目玉品目として「シャインマスカット」に注目しているが，現在は生産量が少なく需要に応えられない状況である。
- 管内JAには，「シャインマスカット」を含むぶどうでの生産部会等が無く，個々の生産者が独学で栽培に取り組んでいる状況である。また，管内のシャインマスカット生産者は，栽培年数が短く，体系的な技術習得を要望している。そのため，研修会等により，農業・園芸総合研究所が開発した収量の安定化，品質向上，省力化等の技術習得を支援する必要がある。
- 一方，水稲やりんごなど他品目と合わせた栽培管理になるため，作業の競合が生じている。各品目の生産状況に基づいた計画的な労務管理を行うことが求められる。
- 今後，直売所等での取り扱い増加とともに，販売促進のため，消費者及び管内の洋菓子店等の実需者へのPR実施等により，産地としてのイメージの定着を図る必要がある。

令和2年度

目標	活動事項	成　果
■ 栽培マニュアル（農業・園芸総合研究所作成）にもとづいた管理ができ，基準の収量や品質が確保される。 ■ 生産状況を把握し作業計画に基づいた，計画的な営農が行われる。 	◆ シャインマスカット栽培者への栽培技術支援 	・ 栽培技術の課題を抽出し，今年度の改善計画を立て取り組んだことにより，品質の改善に向けた作業のポイントが明確化した。 ・ 対象者は省力化技術（仕立て方，薬剤，器具）の効果を実感しており，特に実証ほでは，花穂形成器具の利用によって作業時間が1/3に短縮した。
	◀ 生産状況把握と作業計画策定支援	・ 出芽期，展葉期，開花期等の作業上重要となる時期を把握。作業計画策定のための基礎資料が収集できた。
	◆ 消費者・実需者へのPR支援	・ 県普及関係ブログ，HP等にて研修等を紹介することにより，地域での活動を地域内外へ発信。

意図する対象の変化（最終年）

新技術・省力化技術習得によりぶどう「シャインマスカット」の収量や売上が向上する。

数値目標：対象者の直播栽培収量の増加率
R1：100% → R2：105% → R3：110%